

学校名: ^{あかいわしりつよしちゆうがっこう}赤磐市立吉井中学校

校長名: 山本 一 士

所在地: ^{あかいわ すさい}赤磐市周匝161

電話番号: 086-954-0204

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

岡山県南東部の赤磐市のなかで、一番北部に位置する吉井地区は、美作市、美咲町、和気町、久米南町、岡山市と隣接しており、古くは宿場町として栄えた街である。現在は高齢化が進み生徒数も減少しているが、豊かな自然に恵まれた地域である。

本校は、全校生徒118人の小規模校であり、素朴で素直な生徒が多い。体育の授業では、始業前から活動を行うなど、運動に対して意欲的な生徒が多い。しかし、武道については4分の3の生徒が未経験であり、正座や、蹲踞の姿勢等の礼法がよく分からない生徒や、ひもを結束することができない生徒も少なくない現状である。また、現在は剣道が専門種目である教員がいないため、特に技能面での指導が困難な状況になっている。

2 学校の概要 (平成22年5月1日現在)

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	1	2	2	0	5	
生徒数	男	16	16	21	0	53
	女	13	25	27	0	65
	計	29	41	48	0	118

教員数 17名 (保健体育科 1名)

武道・ダンスの授業の状況

領域: 武道 領域の内容: 剣道

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	10	10	0	0	20	
担当教員数	1	1	0	0	2	
(外部指導者)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
生徒数	男	16	16	0	0	32
	女	13	25	0	0	38
	計	29	41	0	0	70

領域: ダンス 領域の内容: 現代的なリズムのダンス

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	10	10	10	0	30	
担当教員数	1	1	1	0	3	
(外部指導者)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
生徒数	男	16	16	21	0	53
	女	13	25	27	0	65
	計	29	41	48	0	118

II 授業事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

- 指導者講習会において、技能面だけでなく、剣道の特性や用語について理解を深めたり、基本的な授業の組み立て方を理解したりすることで、実際の授業では生徒に自信を持って指導することができた。
- ICT (情報コミュニケーション技術) を活用することで、生徒は目指す姿をイメージし、見通しをもって学習できた。
- お互いに教え合うことで、防具の着装や基本打突等の技能が向上したり、授業に対して積極的な姿勢が見られたりするようになった。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

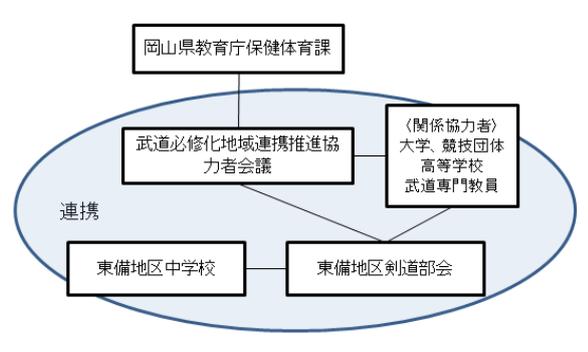
新学習指導要領に対応した単元計画の作成と指導の在り方「わかる授業」

(2) 研究テーマ設定のねらい

本校は平成11年度から、剣道の授業を行ってきたが、現在は専門的な指導ができる教員がいないため、授業を行うのが困難な状況であった。特に、技能面においてのポイントをうまく指導できなかつたり、剣道で使用される用語の意味についての理解が浅かつたりすることから、生徒に対して自信を持って指導することができなかつた。さらに、礼法など、伝統的な行動の仕方について、それぞれがどのような意味を持ち、どのように生徒に伝えていけばよいのかということが指導の課題となっていた。

そこで、講習会でしっかり技能のポイントを把握することや、剣道の特性や歴史、あるいは使用される用語についての意味について十分理解し、自信を持って指導ができるようにすることを本研究のねらいとした。また、本校の今年度研究テーマ「わかる授業」との関連から、授業では互いに教え合う場面を設定したり、ICTを活用したりなど、生徒がより理解しやすいような工夫を行い、積極的に授業に取り組めるようにすることもねらいとした。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

平成22年度	8月5日	指導者講習会へ参加
	9月	単元計画, 教材作成
	9月30日	第2回協力者会議 (日程調整)
	10月19日	剣道授業開始
	10月	指導案作成
	11月12日	公開授業
	12月3日	剣道授業終了
	12月初旬	生徒・指導者にアンケート調査
	2月	まとめ

2 活動及び授業事例

(1) 剣道

① 目的

新しい学習指導要領に対応した単元計画の作成と「わかる」剣道の授業づくり

② 具体的な指導方法や取り組みの様子

ア 指導者講習会への参加

授業で自信を持って指導するために、

8月に行われた指導者講習会へ参加し、木刀による剣道基本技稽古法や防具をつけての打ち込み、礼法の所作について学んだ。打ち込みでは、動画を撮影し、陥りやすい欠点や指導のポイントについて確認した。

また、新しい学習指導要領で指導する内容についての確認や、授業の基本的な流れや、学習ノート等の資料の活用の仕方についても講習会の中で学んだ。



講習会の様子



イ 指導と評価の計画

指導と評価の計画を行うことによって、授業全体のイメージを教師が把握することができ、各時間ごとのねらいが明確になった。また、評価についてもあらかじめ計画しておくことで、各時間毎に教師が生徒を観察するポイントを明確にすることができた。

ウ ICTの活用

授業に入る前のオリエンテーションでの説明や、本時のねらいを示す際に電子教材を使用した。また、技能の説明を行う際に、打突をしている動画を生徒に見せ、目指す姿をイメージしやすいようにした。



電子教材を使用している説明

エ 生徒同士の教え合い

授業の最初にグルーピングを行い、それぞれに役割をもたせた。また、剣道部の生徒や、剣道経験者をグループのリーダーにすることで、練習計画や練習する場面での教え合いがスムーズにできるようにした。また、防具の着装では、2人1組になりお互いに着装の補助を行った。



グループでの活動の様子

③ 成果・課題

ア 単元計画について

単元計画については、昨年度、本事業で作成されていたものを元に構成し、推進協力者会議において、さらに検討した。本校は保健体育科の教員が一人しかいないので、このように多くの意見を得られたことは非常に貴重であった。

ただ、実際にやってみると、防具の着装に思った以上時間がかかってしまい、当初の計画よりも3時間増えてしまった。また、評価については、1時間の中で、観察して行う評価を一つにするなど、精選していく必要があると感じた。

今後は、これらの課題を解決できるように修正を行い、より効果的な指導と評価ができるようにしていきたい。

イ ICTの活用

今回の授業では、剣道の特性や歴史等の知識について、あるいは技能についての理解を促すために電子教材を使

って説明を行った。授業後のアンケートでは、「剣道について学んだこと」という質問に対して、「歴史や伝統的な行動の仕方」、「道場へ一礼」など、知識に関する内容についての意見が多く見られた。(図1)

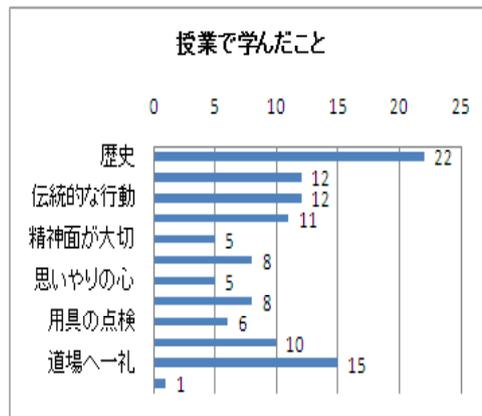


図1 授業で学んだこと

このことから、知識について理解を促すために、電子教材等による、図表や動画を使用した説明を行くことが効果的である事が分かった。しかし、技能面では思ったほど効果が現れていないので、今後、一層工夫していく必要がある。例えば、自分の見たい技の動画を自由に見ることができるようしたり、生徒の打突をビデオなどで録画し、見本と見比べる事ができるようしたりすることである。これらのことは、動画を利用した取組により自己の技能の課題を見つけ、さらに学習が深まる事が期待できる。

ウ 生徒同士の教え合い

剣道は中学校ではじめて履修する内容である。本校ではほとんどの生徒が、剣道未経験者なので、数は少ないが剣道経験者をリーダーとした教え合いによるグループ学習を行った結果、協力して学習できた。特に、防具の着装については、2人組で行ったので、短時間での着装が可能になった。しかし、

剣道経験者のリーダー以外は、剣道の技能も未熟であり、自分のことで精一杯であったため、互いに教え合うという面では課題が残った。次年度の授業では技能の確実な習得を図ることで活発な教え合い活動を引き出せるようにしたい。

エ 教師の技能向上

8月に開催された本事業での指導者講習会では、参加者が少なかったこともあり、逆に非常に充実した内容の講習会となった。自分がこれまでよく理解していなかったことについても個人的に質問ができ、非常に丁寧に教えて頂いた。書籍や、動画などの資料だけではなく、専門的知識を有する講師から、直接指導してもらうことで、授業に対する自信がついた。

課題としては、生徒が安全に学習するための、竹刀や防具の手入方法や、授業の中での危険防止への具体的な対応の仕方があげられる。

オ アンケート結果から

授業終了後に生徒（男子15人、女子13人）にアンケートを実施した。まず、剣道に対する興味・関心については、約63%の生徒が剣道に対して興味・関心を持っていたことが分かる。（図2）

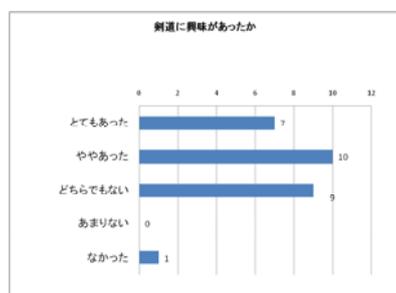


図2 剣道に興味があったか

次に、来年も剣道をしたいかという質問に対しては、「是非やりたい」、「やってもいい」と回答したのは、約54%

であった。「あまりしたくない」「したくない」と回答したのが約25%であった。（図3）

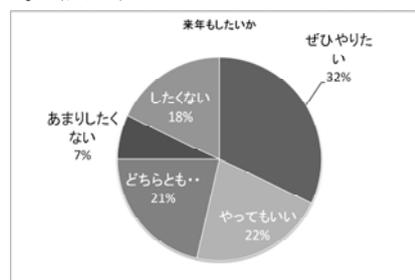


図3 来年も剣道がしたいか

授業でいやだったことは「打たれると痛いこと」と回答した生徒が最も多かった。（図4）

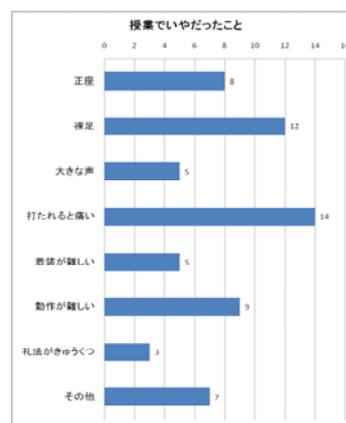


図4 授業でいやだったこと

生徒は日常生活でたたかれる経験が無く、防具の上からとはいえ、竹刀で打たれることに対して慣れていないため、このような結果になったと考えられる。その次に「素足で行うこと」「動作が難しいこと」と回答した生徒が多かった。これらの理由で剣道を「したくない」「あまりしたくない」と回答したのではないかと考えられる。

逆に、「剣道の授業で楽しかったこと」については、「竹刀で打突すること」や「打ち合いをすること」であり、「打つこと」と「打たれること」の調整をすることが「次の年も剣道を行いたい」と思うようになるポイントではないかと考える。この課題を解決するのは非常に難しい

が、例えば、面の下に衝撃を和らげるものを入れたり、小手を打つ時に、小さい動作で軽く打ったりすることで衝撃を少なくするなど、活動を工夫し、相手のことを思いやりながら練習することで対応できるのではないかと考えている。

最後に、「剣道の授業で大切なことはなにか」という質問に対しては、「技能と回答したのが約25%であるのに対して、「礼儀」と回答した割合が約71%であった。(図5) このことは、武道の特性を生徒が正しく理解していることの現れであり、今後の指導につながる結果であった。ただ、礼儀といってもまだ形式的であるので、今回学習したことを普段の生活の中で生かすことができるようにしていきたい。

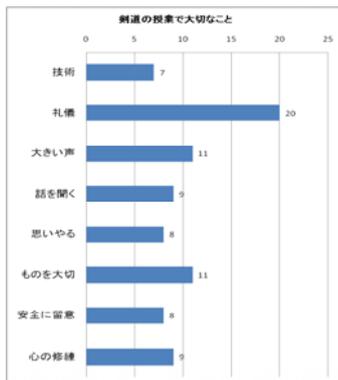


図5 剣道の授業で大切なこと

3 今後の展望

今回の研究を終えて、以前に比べて、剣道の授業を行うことに対する負担感は少なくなったように思う。

このことは、平成24年度からの武道必修化に向けて大きな自信となった。また、指導するためには、自分自身がしっかり技能を身に付けるとともに、特性や歴史についても十分理解しておくことが大切であると改めて認識した。外部指導者を活用する方法も考えたが、地域に適当な人材がない場合や、予算的な関係で活用で

きない場合もあり、やはり自分一人で授業が行うことができるよう準備しておくことが必要と考えている。

今後は、剣道の授業の経験を積んでいくことによって、さらに質の高い授業ができるようにしていきたい。そのためには、一度だけではなく、何度も講習会等に参加し、自分の技能を高めていくとともに、参加している他の先生方と情報交換をしたり、疑問に思っていることを講師の先生に尋ねたりすることも重要である。

今回の授業前後のアンケートにおいて多くの生徒は武道に興味を持っていることが分かった。この生徒達が、「やって良かった」「またやりたい」と思えるように、剣道の楽しさを引き出せるような授業づくり、また「分かる」授業づくりを、今後も研究していきたいと思う。